

CSR コミュニケーションレポート 2013

外部団体および企業とのコラボレーション



企業の経営倫理を实践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



がん患者の生活をサポート
株式会社 VOL-NEXT

患者様が安心して、医療向けウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社である VOL-NEXT 社による医療講習を実施しています。



～みんなでひとつつながろう～
OneWorld プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力 / 公益財団法人日本対がん協会、後援 / J-CAN) の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



表紙のイメージ

文字と絵を組み合わせた、独特の書画で評価の高い、女流書道家・永田紗戀氏にアデランスの取り組みを、「優」(やさしさ)の一字に表現していただきました。詳細は本文 17 ページをご覧ください。



株式会社 **アデランス**

CSR プロジェクト

〒160-0007 東京都新宿区荒木町 13 番地 4

住友不動産四谷ビル

TEL: 03-3350-3542

E-mail: csr@aderans.com

笑顔のために
これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

株式会社 **アデランス**

2013 年 8 月発行

経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は、
毛髪関連事業を通じて、
より多くの人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの

「最高の商品」

「最高の技術」

「心からのおもてなし」

編集方針

「CSR コミュニケーションレポート 2013」発行にあたり

昨年、当社として初めての「CSR コミュニケーションレポート」を発行したことは、当社の今までの取り組み内容を社内外に伝えただけでなく、新たな活動のきっかけにもつながってきています。

今回の「CSR コミュニケーションレポート 2013」では、当社の取り組み内容に関して、その詳細や社内外とのコラボレーションの内容などにフォーカスして、取り上げています。また、本レポート内で紹介していない活動内容や数値・データ等は、「データ編」として集約し、Web サイトに掲載する予定です。

お客様、お取引先、社員、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

報告書の対象期間と範囲

対象期間 :2012 年 3 月 ~2013 年 2 月まで。
ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

企画・制作

株式会社アデランス CSR プロジェクト
アドバイス・サポート：ツバルの森

発行年月と次回発行予定

発行日 :2013 年 8 月
次 回 :2014 年 8 月予定

アデランスグループが現在取り組んでいる活動の中から、特徴的な内容をご紹介します。
ページ番号が記載されている内容は、本誌の当該ページに詳細を掲載しています。

45 周年

アデランスグループは、今年で創業 45 周年を迎えることができました。

→ 3ページ
トップメッセージ

3 テーマ

「お客様に夢と感動をご提供」「毛髪・ウィッグ文化の創造と発展」「笑顔を広げる」の3テーマに基づいて社会的価値のある活動を行っています。

→ 5ページ
アデランスの CSR

30 年以上

1978 年から継続して行っている「愛のチャリティキャンペーン」。2012 年に、クリスマス時期限定のキャンペーンから、通年で行うようになりました。

→ 9ページ
社会・地域貢献

1990 年

人工毛髪の研究開発に取り組み、1990 年に人毛の特性に近い商品の開発に成功しました。

→ 11ページ
社会・地域貢献

17 店舗

病院内理美容室の店舗数は、17 店舗 (2013 年 7 月現在) になりました。

→ 13ページ
お客様の安心・安全

500 本以上

2009 年から取り組んでいる「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」は、今回 500 本の植林に達しました。

→ 15ページ
環境への取り組み

1 万人以上

スタジオADは、のべ1 万人以上の芸能人の方々にご利用いただいています。

→ 17ページ
学術・文化活動

15 ヶ国

アメリカ・ヨーロッパ・アジアなど世界 15 か国で社会的価値のある事業を展開しています。

→ 19ページ
海外での取り組み

2,000 人以上

この1年間で 2,000 人以上の方に講演活動等で、当社の CSR 活動等についてお話しさせていただきました。

→ 22ページ
CSR 広報活動



株式会社アデランス
代表取締役会長兼社長
根本 信男

当社は、1968年の創業以来、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで事業に取り組み、今年45周年を迎えることができました。

現在「アデランス」という社名は幸いにも多くの皆様に知っていただけるようになり、また多くのお客様に当社の商品をご利用いただいております。その分、お客様や社会に対する、当社の責任は大きくなっています。

その責任を適正な形で発展させることが当社のCSRであり、しっかりとしたコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えております。

今後は、「世界のブランド アデランス」の確立に向けて、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。

企業におけるコンプライアンスは、社会におけるインフラ・基盤のように、きちんと整備・形成されていなければ、確固たるビジネスモデルの構築はできません。

当社の財産とも言うべき社員たちは、お客様の悩みの解決に向けて、様々な立場で日々の業務に取り組んでおります。これらの取り組みの主体は、一人一人の社員であり、企業活動はその総和によって成り立っています。

アデランスの活動地域は、グローバルに広がっており、企業の社会的責任にもグローバルな視点が不可欠となっています。すべての社員が自らの社会的責任を自覚し、自分たちの持つ能力を最大限に発揮し、また新たな能力を身につけ、やりがいを持って働ける、CSR意識溢れるグローバル企業グループを目指してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役副社長
石古 茂

会社概要

- 商号：株式会社アデランス
(英文名称：Aderans Co., Ltd.)
- 設立年月日：1969年（昭和44年）3月1日
- 資本金：12,944百万円
- 本店所在地：東京都新宿区荒木町13番地4
(登記上) 住友不動産四谷ビル6階・7階
TEL：03-3350-3111（代表）
- 代表者：代表取締役会長兼社長 根本 信男
- 事業内容：毛髪関連事業およびグループ会社の
経営管理ならびにそれに付帯する事業
- 連結従業員数：4,286名（2013年2月末現在）
- 上場証券取引所：東京証券取引所 第一部
コード番号 8170
- 連結子会社数：42社（2013年2月末現在）

主な事業概要

男性向けブランド

ADERANS

毛髪のプロフェッショナルとして、ウィッグやヘアケア商品の充実に努めています。「髪を増やす」「髪を育てる」というアプローチから、カウンセリングをもとに一人ひとりのお客様に最適な提案を行っております。

女性向けブランド

**FONTAINE
FONTAINE
by レディースアデランス**

女性にとってウィッグはライフシーンを演出する重要なアイテム。いつまでも美しくありたいと願うすべての女性のために、レディメイドからオーダーメイドまで女性のライフスタイルを彩る魅力的なブランド展開を進めております。

毛髪移植

BOSLEY

ボズレーは世界24万例以上に及ぶ治療実績を誇る毛髪移植（ヘアトランスプラント）技術を提供。経験豊富な30名以上の医師、250名以上の医療スタッフが23のクリニックをもつ米国のみならず、メキシコ、シンガポール、中国で患者様をお迎えしています。

海外ウィッグ

HAIRCLUB

ヘアクラブは、米国、カナダ、プエルトリコにおいて、男性向け・女性向けオーダーメイドウィッグを販売。育毛サービスも提供しています。さらに、北米・欧州・アジアのグループ会社でもウィッグ事業を展開しています。

国内外ネットワーク（2013年2月末現在）

店舗数等	
国内	357店
アデランス	
レディスアデランス	161店
フォンテーヌ	182店
病院内サロン	14店
国内外	15ヶ国
地域別従業員数	
国内	2,017名
国外	2,269名
計	4,286名



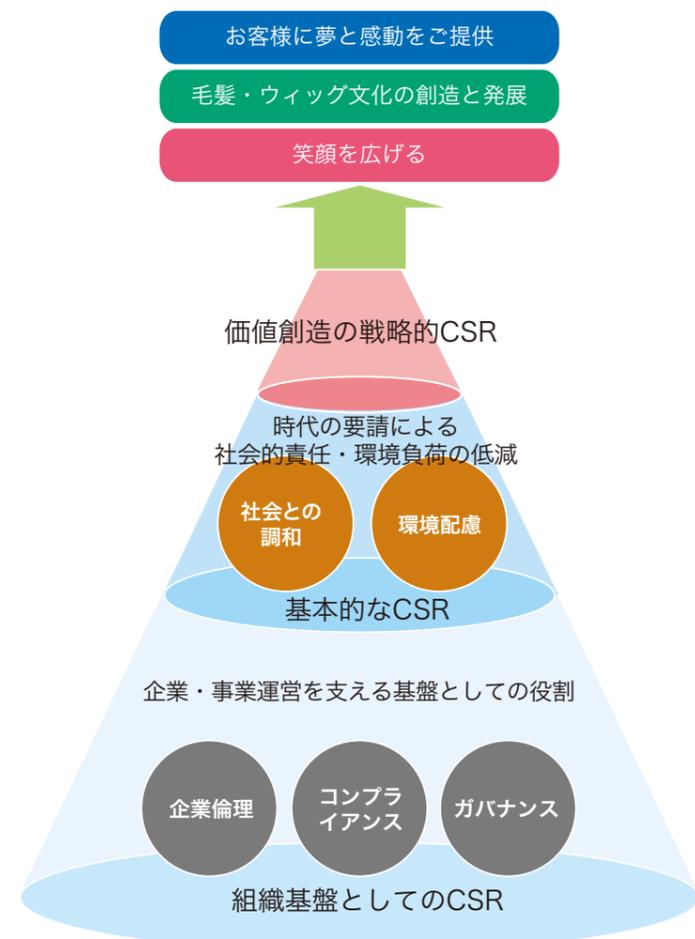
- ・オランダ
- ・フランス
- ・ドイツ
- ・イギリス
- ・スウェーデン
- ・ベルギー
- ・日本
- ・中国
- ・台湾
- ・シンガポール
- ・タイ（自社生産工場）
- ・フィリピン（自社生産工場）
- ・ラオス（提携工場）
- ・アメリカ
- ・カナダ
- ・メキシコ

これまでも、そしてこれからも続けていく 「笑顔」のアデランスのCSR

CSR 方針

私たちは、
事業を通じて、
お客様や社会にやさしく、
世の中に多くの笑顔を
広げていきます。

CSR 活動体系



アデランスグループは、創業以来、お客様の髪のお悩みを解決するために、真摯に取り組み、活動を続けてきました。常に新たな社会的価値を創造することで、毛髪・ウィッグ文化が栄え、世の中の笑顔を上げたいと考えます。そのために当社は何ができるかを、すべての人々と共に考え、行動していきます。

こうした活動を「事業と一体化した戦略的 CSR」として進めています。事業活動を通じて、「お客様に夢と感動をご提供」「毛髪・ウィッグ文化の創造と発展」「笑顔を広げる」といった、社会的価値の創造を目指し、取り組んでいます。

また、事業を行う上で、社会や時代の要請により、企業市民として、社会的責任や環境配慮などにも取り組む必要があります。たとえば、環境配慮では、製造工場での ISO14001 の取得、商品リサイクル対応など、様々な活動に現在取り組んでいます。

最後に、企業倫理やコンプライアンスなど、企業が事業活動を行う上で、土台となる組織基盤も重視していません。不祥事や様々なリスクの発生を未然に防ぎ、また問題発生の際にはその影響を最小限にするための活動を進めています。

アデランスグループの CSR 活動は、「社会的価値を持った活動」をさらに深め、広げていくことで、お客様や社会からの信頼に基づいた、健全で持続的な企業成長を目指すことです。



Photo by Atsutoshi Shimosaka



企業価値を創造するアデランスの戦略的CSR



一般社団法人
経営倫理実践研究センター
専務理事・事務局長
手島 祥行 氏

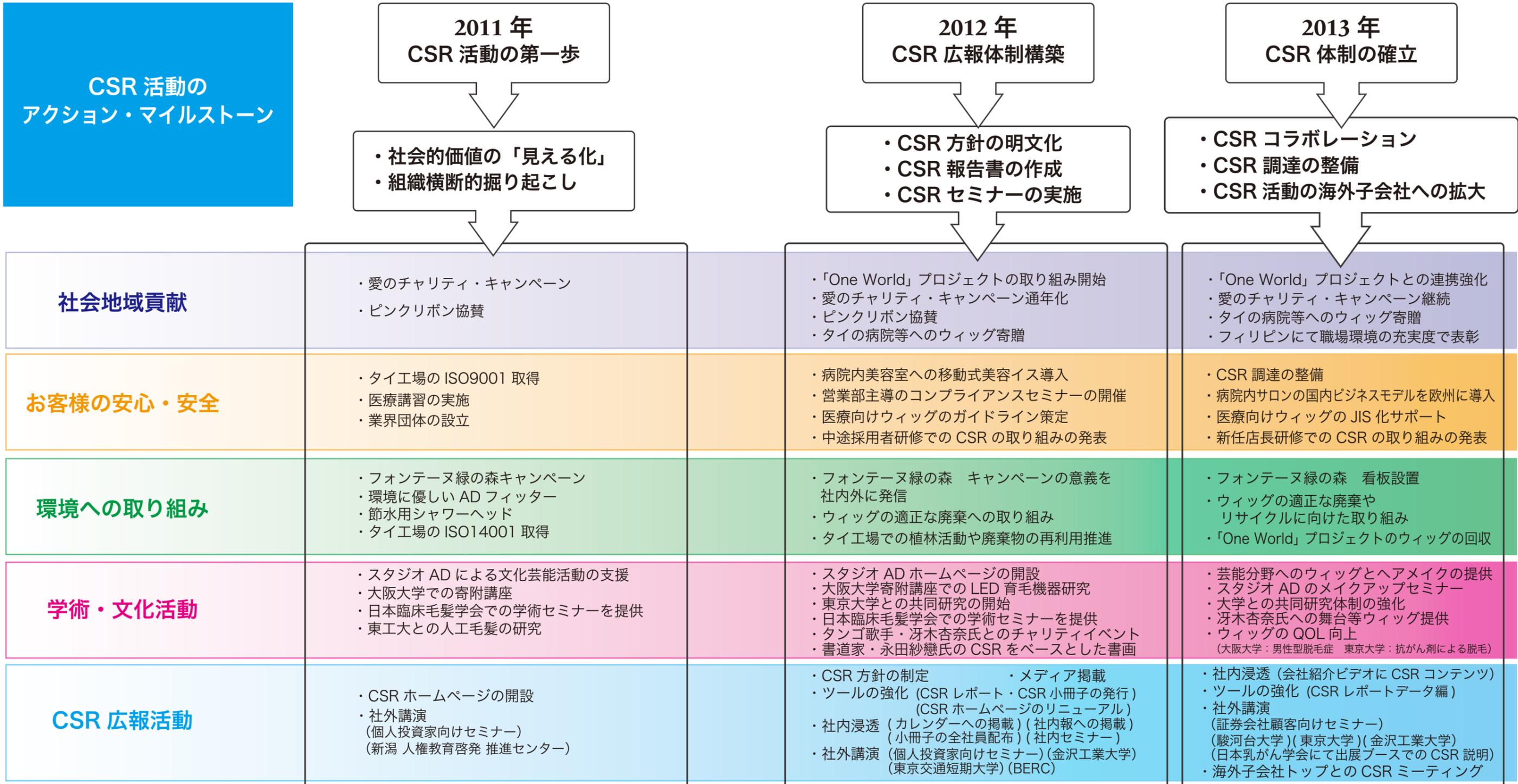
CSR は、経営トップの意思や考え方にに基づき、事業を通じて社会的責任を実現するための経営戦略であると考えています。そして、法令遵守等のコンプライアンスを超えて、様々なステークホルダーにどのような価値を提供するかといった命題に応えることが必要となります。そういう点で、アデランス社の CSR 活動やレポートを見ると、消費者を意識した、いくつもの取り組みを具現化しています。

一般社団法人「経営倫理実践研究センター」の研究会で、アデランス社の事例が紹介されましたが、会員企業様の研究会参加者から評価が高く、事業と CSR が一体化した、特徴のある活動として、ユニークかつ注目される内容でした。

今後も、アデランス社の継続的な CSR 活動が、より一層の業務改善、改革につながることを期待しています。

※経営倫理実践研究センター
経営倫理の実践研究および啓発・普及、産学の拠点づくりを目的として設立された日本で初めての専門機関

経営理念	私たちアデランスグループの最大の使命は、毛髪関連事業を通じて、より多くの人々に夢と感動を提供し笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。
CSR 方針	私たちは、事業を通じて、お客様や社会にやさしく、世の中に多くの笑顔を広げていきます。



アデランスグループの商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組んでいます。

笑顔あふれる、しあわせの瞬間。



30年超続く、
笑顔とよろこびを広げる
アデランスのCSR活動の原点

愛のチャリティ

東日本大震災支援「One World プロジェクト」で ウィッグの「お手入れ支援サービス」

2011年3月11日の東日本大震災で被災された、がん患者様に対して医療向けウィッグなどを届ける支援団体「One World プロジェクト」が、医療関係者やNPO 法人が有志で集まり、2011年4月より活動を始めています。

アデランスグループは、同団体の活動に賛同し、ウィッグの「お手入れ支援サービス」を2012年より開始しています。

ウィッグをより快適にお使いいただくためには、さまざまなケアが必要で、見た目の自然さを出すためのウィッグのヘアカットや、ウィッグのシャンプー・セットによる汚れのクリーニング、ウィッグとのヘアバランスを調整するための自毛カットなど、定期的なお手入れが重要となります。

この「お手入れ支援サービス」では、利用者様がフィット感を持ちながら長く使っていただくために、ウィッグのメンテナンスのサポートを、東北6県のアデランスの店舗等でお受けしています。



また、「One World プロジェクト」への「お手入れ支援サービス」を進めている中で、同プロジェクトのボランティアの方の声にお応えして、古く傷んでしまっているウィッグの回収を当社で行うことになりました。

愛のチャリティ キャンペーン通年化

アデランスグループは、病気やケガなどを原因とする脱毛に悩む小学生・中学生に対してオーダーメイドウィッグをプレゼントする取り組みを「愛のチャリティキャンペーン」として1978年から継続して行っています。

第27回を迎えた2011年には、200人の子どもにウィッグを贈りました。

このキャンペーンのきっかけは、様々な原因で脱毛による心の傷を負っている子どもがいるという事態を目にしたこと。「お子さまはもとより、ご家族や周囲の人々の笑顔のきっかけになってほしい」と考えてキャンペーンを実施しています。クリスマス時期に行っていた、このキャンペーンを、2012年9月より通年で行っています。



One World プロジェクト
事務局代表
寺田 真由美 氏

被災された患者様を 配慮した取り組み

長引く復興の中、がんと闘う患者さんにとって治療による脱毛は大きな打撃です。ウィッグのプロであるアデランスさんの「One World プロジェクト」への協力は、そんな患者さんや患者さんを支える医療者の方々にとって、心強い支援となっています。



株式会社アデランス
東北営業部 部長
鈴木 成仁

アデランスにできる 被災者支援活動

「お手入れ支援サービス」は、医療関係者から、様々な意見・要望を頂き、的確な対応をする事で多くの患者様とお会いする機会を持つことができました。今回の「One World プロジェクト」への協力は、当社への信頼関係を新たに築けたのではないかと思います。

時代とともに変わる、お客様の毛髪に関する悩みに応えるため、アデランスグループがご提供できる分野も増毛や育毛へと展開し、さらに今後も積極的な研究開発を進めています。

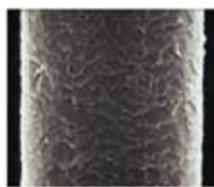
人工毛髪への挑戦

これまでほとんどのウィッグには人毛が使われておりましたが、当社では、お客様へ安定的にウィッグ商品を提供するために、1983年より人工毛髪の研究がスタートしました。

1987年に、人毛のキューティクルに代わるものとして、高分子材料の特性を生かした球晶による擬似キューティクルを表面に形成させ、色褪せが無く、スタイルが崩れない人工毛髪の開発に成功し、1990年より「サイバー

ヘア」の名称で商品化し、発売を開始しました。

さらに、雨や洗髪など、また空気中の水分で変化する天然毛髪の風合いを表現できる「バイタルヘア」の開発にも成功し、2006年に商品化しました。



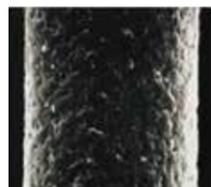
天然毛髪



一般的人工毛髪
(合成繊維)



サイバーヘア



バイタルヘア
ナチュラルヘア

アカデミック機関との連携による 毛髪分野の研究成果を お客様の悩みの解決へ



アカデミック機関との 共同研究

アデランスグループは、大学研究機関等と様々なテーマの共同研究を進め、毛髪分野に関する新たな知見を探っています。アカデミックな助言や裏付けの取れたデータを元にした、育毛や毛髪研究の成果などを活用し、商品力を高めることで、お客様の喜びの輪を広げていきたいと考えています。

～第112回日本皮膚科学会総会にて発表～

世界初 AGA(男性型脱毛症)ウィッグ(かつら)使用者心理調査を実施



大阪大学との共同研究 (2006年～)

大阪大学大学院医学系研究科に『皮膚・毛髪再生医学(アデランス)寄附講座』を開設しました。薄毛で悩む人々への新たな解決策の提供を目指し、日本における毛髪研究の第一人者である板見智教授を中心に研究を進めています。

板見智教授と乾重樹准教授による、男性型脱毛症患者へのウィッグ効用に関する論文が、国際的に権威のある医学誌

”Journal of Dermatology” 2013年3月号に掲載され、その後6月14日から6月16日に開催の「第112回日本皮膚科学会総会」において、研究発表されました。

今回のような統計的調査は世界初であり、ウィッグ着用により心理的 QOL が改善することが、医学的に証明されました。

東京工業大学との共同研究 (2006年～)

アデランスグループは、お客様へ安定的にウィッグ商品を提供するために、1983年より人工毛髪の研究をスタートしました。そして1987年に人毛に非常に近い人工毛髪の開発に成功し、1990年より「サイバーヘア」の名称で発売を開始しました。

この研究について、東京工業大学の鞠谷雄士教授から高い評価をいただき、『プラスチック成形加工学会年次大会』で2009年から3年連続して研究発表を行っています。

東京大学との共同研究 (2012年～)

老年看護学・創傷看護学分野を専門とする東京大学大学院医学系研究科・真田弘美教授と、スカルプケアサイエンスに関する共同研究を行っています。

お客様に提供できる
毛髪分野の拡大

増毛

育毛

毛髪移植

毛髪研究



東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻
老年看護学/創傷看護学分野
教授 真田 弘美 氏

患者様にやさしい 新たな研究領域への探求

脱毛症患者様は精神的苦痛と同時に、痛みや痒みなどの身体的苦痛にも悩んでおられます。しかし、頭皮のどのような変化がこれらの苦痛を引き起こすのか、ほとんど明らかにされていません。

このメカニズムの解明と苦痛の本質にアプローチするケア技術の開発を目的とした『スカルプケア・サイエンス』研究を展開し、患者様の健やかな生活に貢献して参りたいと考えています。



株式会社アデランス
取締役
営業本部長兼 研究開発部長
津村 佳宏

大学研究機関との連携で 高い商品力の実現

本社・現場・生産が一体で商品開発を行うことで、優位性の高い商品の提供が可能となりました。さらに、さまざまなアカデミック機関との連携による成果が、商品力を高め、多くのお客様の喜びにつながっています。

トータルヘアソリューション No.1カンパニーとして、世界中の髪が元気になるよう取り組み続けます。

アデランスグループでは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げています。お客様の満足と信頼を高めるために、当社が一丸となって取り組んでいる活動の一つをご紹介します。



病院内理美容室への
移動式美容イス全店導入
様々なお客様のご要望にも対応

様々な状況のお客様を 配慮した取り組み

病院で療養中の患者様には抗がん剤の影響などによる脱毛に悩む人が多くおり、病院ではこうした患者様の相談に応えることが難しい状況でした。

アデランスグループでは、病院内にバリアフリーの理美容室（ウェルネスヘアサロン）を開設し、そのようなケアを必要とされる患者様に、ウィッグ商品やアフターケア、日常の頭髪への技術サービスなどを提供しています。療養中の患者様やその家族、病院職員などの皆様にご利用いただいています。

また、移動が困難で病室から出られない患者様にも、毛髪の悩みを解決できないかという思いがあり、実現が難しい問題を抱えていましたが、移動式美容イスが、その思いを実現してくれました。

この移動式美容イスは、「移動する」「カットをする」「シャンプーをする」を一つのイスで

実現でき、さらに患者様の負担を少なくできるというもので、ご利用いただく多くの患者様から喜ばれています。

現在、アデランスグループでは17の病院（2013年7月現在）に、バリアフリーの病院内理美容室と、この移動式美容イスを導入し、様々な患者様のご要望に対応できるようにしています。

ハードだけではなく ソフトの対応も

アデランスグループでは、2005年に初めて医療向けウィッグを発売し、その際に、接客にあたるスタッフ全員に対して、外部講師による医療講習の受講を義務付けました。医療向けウィッグの購入者は、多くが患者様であり、各疾病や脱毛の原因などに正しい知識を持つことや、お気持ちを十分に踏まえて接客することが重要となるためです。



がん患者サービス事業会社であるVOL-NEXT社による医療講習を実施し、患者様が安心して、医療向けウィッグをご利用できる体制を整えています。



患者様が安心してご利用いただけるよう、医療向けウィッグについてまとめた小冊子をご用意しています。



株式会社VOL-NEXT
代表取締役社長
曽我 千春 氏

がん患者にやさしい アデランス社の取り組み

アデランス社が医療講習を受け始めて8年。がん患者の生活や心理を真摯に学び続けてこられた、その姿勢は、ウィッグの存在を、治療での脱毛により仕方なく使うモノから、「自分らしく生きていく」ツールに変えてきました。これこそが、がんを二人に一人が経験する今の日本で、アデランス社独自の社会への責任の果たし方だと思えます。



株式会社アデランス
医療事業推進部 部長
大里 修治

患者様目線で 接客やサービスを進化

病院内サロンには、一般の理美容室に来られるようなお客様以外に、体や心に深い傷を負った患者様も来られます。そのような患者様に真剣に向い合い、病院に居ることを忘れてもらえるような「癒しの空間」を提供する事がテーマと捉え、接客方法やサービスの改善を重ねていきます。

環境への取り組み

アデランスグループは、CO₂ 排出量などの環境負荷の削減を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、「低炭素社会」「循環型社会」「自然との共生」に配慮した活動に取り組んで参ります。



フォンテーヌ緑の森 キャンペーン

アデランスグループの主力商品であるウィッグは、約 80% 以上が人工毛で作られており、プラスチックの一種によりできています。お客様がご購入されたウィッグは、経年の利用とともに劣化し、ご不要となることがあります。その場合、家庭ごみとして廃棄されると、プラスチックに含まれる成分により、CO₂ の発生が危惧されます。

そのようなウィッグを、アデランスグループが回収して、適切な廃棄 処理を行うことで、環境負荷への影響を低減することができますのではという思いから始まったのが「フォンテーヌ 緑の森キャンペーン」。ご協力いただいたお客様には、クーポンをお渡し、購入時にその クーポンをご利用をいただくことで 植林活動にもつながる、という仕組みで、環境にやさしいキャンペーンとして、環境コミュニケーション企業である「ツバルの森」と協働で、2009 年から継続的に実施しています。

年度	植林本数
2009年	65本
2010年	225本
2011年	40本
2012年	75本
2013年	150本
計	555本

現在、同キャンペーンの植林を行っている場所は、日本の山梨県の山林地。2009 年に苗木で植えた木も、大人の背丈ほどの高さぐらいいまに成長しています。立派な樹として成長するまで、あと数十年かかりますが、豊かな自然の恵みを次の世代につなげることができるよう、見守っていきたくと考えています。

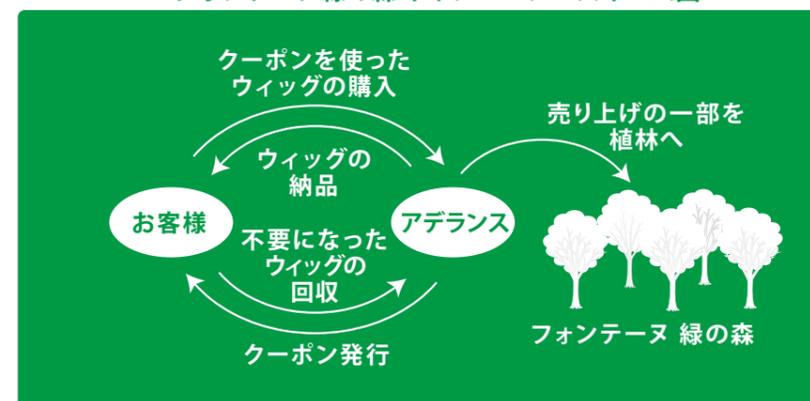
使われなくなったウィッグ



キャンペーンをお知らせする DM



フォンテーヌ緑の森 キャンペーン スキーム図



ウィッグの回収と植林を結ぶエコサイクル
「フォンテーヌ緑の森 キャンペーン」で
500本以上を植林



株式会社ツバルの森
代表取締役
三嶋 浩太 氏

お客様と一緒に取り組む事業と一体の境保全活動

ツバルの森では、環境保全などの社会的問題の解決につながる各種企画の運営を行っています。今回のアデランス社の取り組みは、日本の荒廃する森林問題と、お客様と企業をつなぐ構造で、従来の環境保全活動と比べ大変意義深いものだと思います。



株式会社アデランス
FN営業企画部 担当部長
小野 浩司

使い古したウィッグは可燃物ゴミ？

「お客様の声」からスタートした「緑の森キャンペーン」が当社の社会貢献の一つとして育っていくことに喜びを感じます。一本一本の植栽にお客様の環境への思いがあり、今後も着実に広がる緑の森が、お客様の喜びの声と思い、取り組んでいきます。

アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」あふれる社会の実現をめざし、当社の強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。



今年アデランスグループは、創業 45 周年を迎えました。これからも、一人でも多くみなさまのお役に立つことで、「笑顔」があふれる社会を目指します。

今回、記念ビデオ「心はひとつ - すべては笑顔のために -」を制作し、男性デュオ「ソルジェンティ」氏にオリジナルの楽曲を提供いただきました。

世界中の人々に笑顔と希望を

経営理念やお客様の声を拝見させていただき、アデランス社には「人に喜んでもらえる仕事」「やりがりのある仕事」「誇りがあふれる仕事」があるのだと感じ、今回の楽曲を作らせていただきました。

SORGENTI (ソルジェンティ)



すべては笑顔のために

作詞：木坂寛 作曲：木坂光弘

すべては笑顔のために
 僕らの想いよ届け
 幼いころから言われ続けしみついた
 「人の為に生かされる人でいなさい」
 回り道もした 迷惑までかけてきた
 何もできない僕は迷い続けてた
 だけど今一筋の光がさす
 この場所に求めてた使命がある
 すべては笑顔のために
 僕らの想いよ届け
 変わることを恐れないで今は進もう
 仲間と作り上げた 絆がここにある
 走れ!心ひとつに

「毛髪・ウィッグ」領域を中心に 文化の創造と発展を



Photo by Atsutoshi Shimosaka



スタジオAD※による ウィッグ文化の提唱

1983年にミュージカル「キャッツ」が劇団四季によって日本で初演されました。キャッツの激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季のヘアメイク、衣装デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。

アデランスグループ独自の芸能用ウィッグは、その後、「オペラ座の怪人」、「美女と野獣」といった日本を代表する舞台芸術に協力し、その他さまざまな映画やテレビ、コンサートなどにおいても使用されております。

多彩な文化芸能活動へウィッグの提供を通じて、ウィッグ文化の提唱を行っております。

※スタジオAD：アデランスの文化芸能部門で、ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団です。

輝く女性への応援

タンゴ歌手「冴木杏奈」

NewsWeek 日本版 (2005 年 10/26 号) で「世界が尊敬する日本人 100 人」に選ばれるなど、世界で活躍し、タンゴ界を代表するトップアーティストとして名高い、冴木杏奈氏のコンサートツアーやイベント等に、アデランスグループのウィッグを提供し、利用いただいております。

また 2012 年 10 月、アデランスグループと冴木杏奈氏と協働で、「ウィッグコンテスト」を盛り込んだ、チャリティコンサートを行いました。

2013 年 6 月に行われたパリの公演では、当社のフランスの子会社と一体となって、ウィッグとヘアメイクのサポートをしました。



書道家「永田紗戀」

女性ならではの素直な言葉と、そこからイメージする彩色豊かな作品、書道の枠を超えた自由な雰囲気が多く女性から支持されている、書道家・永田紗戀氏の書画を当社の社内報表紙・カレンダーや、本レポートの表紙等に提供いただいております。

2012 年の FIFA 日本戦 公式スポンサーに

アデランスグループは、サッカー事業を通じてスポーツ文化を創造し、国際社会の発展に貢献する国際サッカー連盟 (通称 FIFA) の活動に賛同し、2012 年 12 月に日本で開催されたクラブチームの世界王者決定戦、FIFA クラブワールドカップ ジャパン 2012 に、公式イベントスポンサーとして、同大会を支援いたしました。

このような支援が、スポーツを通じた青少年の育成につながることを願っています。



書道家
Saren's Studio
永田 紗戀 氏

「すべては笑顔のために」 思いを一文字に込めて

アデランスさまの CSR を知れば知る程、感動を覚えます！
まるで両手でそっと植えた苗木が大木になる様な力強さと大きな優しさ。素敵な感動は誰かに伝えたい。今回の作品は、その想いで描きました。

今回の冊子の表紙および挿絵は、永田紗戀氏に描いていただきました。



株式会社アデランス
スタジオADトータルプランナー
山田 操

27年培った 芸能分野での実績

スタジオADとして活動をはじめ 27 年になります。今までにのべ 1 万人以上の芸能人の方々に映像やステージの場でご利用いただいております。
一般の方々にご利用いただいている商品にもその技術が生かされ、今後もデザイン性や素材にまでこだわったモノ作りを心掛けていきたいと思っております。

海外での取り組み

現在、アデランスグループは、世界15カ国で事業を展開しています。各国の海外子会社においても、国内のCSRの取り組みと連動して、「笑顔を広げる」活動を実施しております。

ヨーロッパでの取り組み

「MyNewHair」への支援

「MyNewHair」は、世界的なヘア・スタイリストであるTREVOR SORBIE氏によって設立された、抗がん剤による脱毛に苦しむ人々へウィッグのスタイリングアドバイスを提供する団体です。

ガンなどの患者様にとって、病気治療により毛髪を失うことは、外出を控えたり、帽子をかぶって隠すなど、日常生活を制限することにもつながり、とても精神的負担の大きいものです。

ウィッグにより、その精神的負担を和らげることができるのではないかと。患者様と美容師の方に向けて、活動を始めたのが、「MyNewHair」です。



当社の英国グループ会社である、トレンド・ヘア・サプライズ社では、同団体へウィッグを提供し、美容師に対するカット指導などの支援を行っています。

病院内サロンの展開

アデランスグループでは、2002年から日本国内において病院内理美容室（サロン）を開設しました。

日本国内の病院内理美容室は、病院で療養中の患者様やその家族、病院職員などの皆様からの評価が高く、国内のいろいろな病院への展開を行っています。（病院内理美容室の内容は13ページをご覧ください。）

この国内のビジネスモデルを福祉先進国であるスウェーデンへの導入を始めています。

スウェーデン第2の都市であるヨーテボリ市のソールグレンスカ病院で、2011年2月から病院内サロンがスタートしました。



今後、ドイツやオランダ等においても病院内サロンの展開を予定しています。

アジアでの取り組み

職場環境の充実度で表彰

2013年2月、アデランスフィリピン社（API）が、フィリピンの労働省管轄の“MDG ACHIEVEMENT FUND”から、従業員（特に女性）に対する職場環境の充実、福利厚生面での促進、従業員の家族に対して配慮されているとして表彰されました。



タイ工場の環境の取り組み

アデランスグループの生産拠点であるタイ工場において1999年、ISO14001（国際環境管理規格）を認証取得しました。ISO14001は地球環境保全活動の認証規格であり、環境保全の取り組みを継続して実施しております。

ウィッグ製作時に発生する廃材を、資源の無駄をなくし有効活用できないかと考え、造花、車拭きやクッション、サンダルなど多種多様な試作に取り組んでいます。造花については現在、現地での定年退職者への花束贈呈等に利用しています。



また、ウィッグ製作時に生じる廃材をリサイクル業者へ売却し、その収益で工場地内に植林を行っています。



アメリカでの取り組み

各種ボランティア活動への参加

食事に困っている人に食事を支援する活動「Northwest Harvest Food Bank」、乳がんの啓蒙・支援をする「Making Strides Against Breast Cancer」、子供に本を提供する「Page Ahead」など、各種ボランティア活動に参加しています。



日本の津波被害支援

日本の3.11の津波被害支援のため、ボズレー社と他米国子会社数社で支援金調達グループを作り、集まった支援金を米国赤十字社に寄付しました。



小児がん支援行事への参加

ボズレー社の有志社員で、小児がん患者への支援団体主催のマラソン大会に参加し、活動資金集めに協力しました。



Bosley Gives Back

ボズレー社では、35周年を記念して、米国の兵役により被った頭髪問題を持つ方々へ、無償の毛髪再生プログラムを提供しております。

従軍者で毛髪の損傷や進行性脱毛に悩む方が多く、ボズレー社の得意分野である「毛髪修復」技術を生かしたいと始めた取り組みです。



当社の CSR のこれまでの活動とこれからの目標をテーマに、コンプライアンス、企業倫理や CSR 経営の第一人者である田中宏司氏から、外部の有識者としての意見をいただきました。
(実施日：2013年7月29日)

箕輪 昨年の CSR コミュニケーションレポートのステークホルダーダイアログで先生からご指摘された CSR 活動の「見える化」の重要性を鑑み、活動内容の見える化を工夫し、独自のアクションマイルストーン指標を策定しました。
(アクションマイルストーンの内容は7ページをご覧ください。)

田中 「見える化」を工夫することは、活動そのもののブレをなくし、将来への広がりを実感できるものとします。御社のアクションマイルストーン指標は、経営理念、CSR 方針、課題、活動施策、CSR 広報といったものが一覧化されており、CSR が経営と一体化して行われていることがよく分かる指標となっていると思います。

箕輪 ありがとうございます。この指標を活用して、確実な推進を図ってまいります。また、ステークホルダーコミュニケーションを強化し、CSR を広報に反映させるために、大学での講義を新たに取り組んでおります。大学で講義することは、有効な広報手段であると同時に経営倫理や CSR の専門家である大学教授や真剣に授業に参加している学生たちの声を聞く機会となり、当社の CSR 活動を伝えるだけでなく、活動への指摘や助言を受ける有意義な場となっております。

田中 大学で授業をするためには、各大学の教授会の選定基準を通るといわずかしいハードルを越えなくてはなりません。これだけ多くの大学から招聘されているということは、御社の CSR 活動が高く評価されているということであり、こういった評価の広がりが、将来的に企業価値を高めることにつながります。また、大学教授や学生からのフィードバックは、御社の CSR 活動の内容をさらに高めるために大いに役立つものと思います。



箕輪 今後は、世界 15 か国での事業展開を活かし、事業と一体化した独自の CSR 活動を、各国の会社を拠点に拡大し、海外でも発信できるグローバルな活動としていきたいと思っております。そのため、海外現地の経営陣とは積極的にコミュニケーションを図っています。

田中 CSR は元々欧米で生まれた概念なので、ISO 26000 のガイドラインもグローバルな視点から策定されています。御社は、事業基盤がグローバルに広がっていることが大きな強みですので、病院内サロンというビジネスモデルのスウェーデンへの導入など、国内で確立した「事業を通じた戦略的な CSR 活動」が海外に拡大していくことを期待しています。

株式会社アデランス
CSR プロジェクト 部長
箕輪 睦夫

田中 宏司氏
東京交通短期大学 名誉教授
(社) 経営倫理実践研究センター 理事・首席研究員
日本経営倫理学会前副会長
元 経済産業省「ISO26000 JIS 化本委員会」委員

CSR 広報活動

アデランスグループの CSR 活動や取り組みを、多くの方に知っていただくため、ステークホルダー・コミュニケーションの一環で、各種 CSR 広報ツールの公開やイベント等での講演を行っております。

- | | | |
|-------|-----|--|
| 2012年 | 8月 | ・ CSR 小冊子「笑顔のために」を発行
・ 「CSR コミュニケーションレポート 2012」を発行
・ 【講演】 ツバルの森主催の個人投資家向けイベント「IR フォーラム 2012 東京」 |
| | 10月 | ・ 【講演】 経営倫理実践研究センター (BERC)・CSR 部会
・ 【講演】 東京交通短期大学・交通倫理特別講義 |
| | 12月 | ・ 【講演】 経営倫理実践研究センター関西部会
・ 【講演】 金沢工業大学・科学技術者倫理特別講義 |
| | 2月 | ・ CSR の Web サイトをリニューアル |
| 2013年 | 4月 | ・ 【講演】 野村証券 仙台支店・「野村のハッピーライフセミナー」
・ 【講演】 野村証券 倉敷支店・「野村のハッピーライフセミナー」
・ 【講演】 駿河台大学経済経営学部
「ビジネス・ケーススタディー：企業と社会における " 消費者教育の実践 "」 |
| | 5月 | ・ 【講演】 東京大学大学院医学系研究科・特別講義
・ 【講演】 経営倫理実践研究センター (BERC)・先進事例セミナー |
| | 6月 | ・ 【講演】 金沢工業大学・科学技術者倫理特別講義 |



金沢工業大学での講演風景



経営倫理実践研究センター (BERC) での講演風景



個人投資家向けイベント「IR フォーラム 2012 東京」での講演風景



金沢工業大学
基礎教育部 准教授
岡部 幸徳 氏

多くの学生が共感したアデランスの CSR

全学部 3 年次必修科目の「科学技術者倫理」で、学生たちがアデランス様の講義を聴講しました。アデランス社の本業を通じた本気の CSR 活動を熱く語る箕輪先生のご高話に、多くの学生達が共感し、本気の CSR の重要性を理解してくれました。

CSR 情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ適切に情報をお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSR コミュニケーションレポート」「笑顔のために」の 2 誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<http://www.aderans.com/csr/>